

見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち

December 2015 vol.20

December						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

◆ 東南海地震の碑 (名古屋市南区)

所在地：名古屋市南区豊田 名南ふれあい病院

交通：名古屋市営バス「三新通二丁目」停すぐ

昭和 19 (1944) 年 12 月 7 日に発生した昭和東南海地震では、愛知県内で 435 名の方が亡くなっています。地震による死者の内訳は名古屋市で 121 名 (うち南区で約 90 名)、半田市で 188 名となっており、この 2 市で実に愛知県の死者数の 70% を占めています。昭和東南海地震の震度は、場所によっては震度 6 強や 7 と推定されていますが、名古屋市南区や半田市はともに震度 6 弱程度で、周辺地域に比べて特に震度が大きかったということはありません。昭和東南海地震は太平洋戦争中に発生した地震であり、この 2 地域の共通点は、飛行機の増産体制に合わせて多くの軍需工場があったという点です。

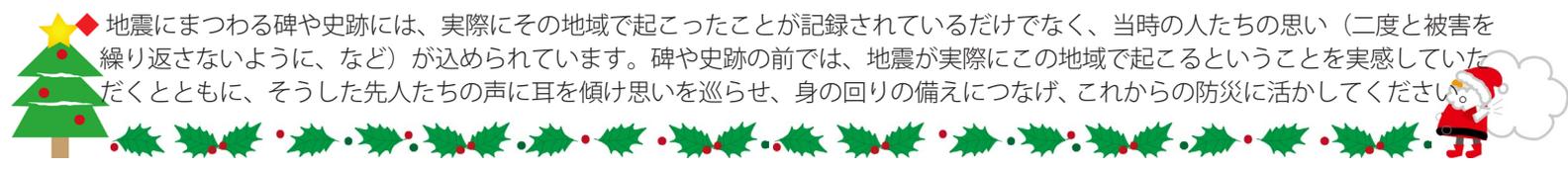
名古屋市南区には、臨海部の埋立地などに三菱重工の飛行機関連工場がひしめいていました。昭和東南海地震では、このうち道德工場で悲劇が発生したのです。埋立地にあったレンガ造りの工場の建物は、震度 6 弱の揺れに見舞われ倒壊してしまいます。結果、この三菱重工道德工場で勤務していた、全国から集められた動員学徒や朝鮮半島から駆り出された女子勤労挺身隊の少年少女を含む 57 名が、倒壊した建物の下敷きとなり命を落としてしまうのです。しかしながら、同じ埋立地で、山崎川を挟んで反対側に建っていた大江工場は内部の機械に被害は出たものの、建物は倒壊せず死者の発生には至りませんでした。理由は明白で、道德工場はもともと紡績工場だったものを、国策に従って軍需工場化したもので、飛行機の組み立ての邪魔となる壁

や柱などの建物として重要な部材を取り払ってしまっていたのです。耐震基準は昭和 12 (1937) 年に緩和され、昭和 18 (1943) 年からは完全に停止状態になっていたことも影響していると考えられます。なお、半田市の死者 188 名のうち 150 名余りも、同様に耐震性を欠いた軍需工場のものであり、建物の耐震性の重要さがあらためて浮き彫りになっています。

道德工場は、戦後再び紡績工場として再開し、昭和 63 年に犠牲者調査追悼実行委員会の手により、工場内に慰霊碑が建てられました。その後、工場の閉鎖に伴い、慰霊碑は隣の名南ふれあい病院の敷地に移され、平成 24 年 11 月 4 日に移設・除幕式が行なわれています。慰霊碑には題字として「悲しみを繰り返さぬようここに真実を刻む」と書かれており、道德工場で犠牲となった 51 名の日本人と 6 名の朝鮮人の名前が刻まれています。移設・除幕式には元朝鮮女子挺身隊の人や動員学徒ならびにその遺族や友人、旧三菱重工の工員など、ゆかりの人々が参列し、今も癒えることのない痛恨の思いが語られていたとのこと。碑文にあるように二度と「悲しみを繰り返さぬ」よう、日頃から地震について考え、備えておかなければなりません。(武村雅之：東南海地震を歩く in 愛知・静岡、電力土木 9 月号、367、pp.3-9、2013.9 を元に作成)



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い (二度と被害を繰り返さないように、など) が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していたら、たとえ、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆ 東南海地震の碑の周辺には…

● ^{うんしんじ}雲心寺（震災弔魂碑）

所在地：名古屋市熱田区尾頭町

交通：地下鉄名城線「西高蔵」駅北西約200m

震災弔魂碑は、明治24年（1891）濃尾地震の際に、尾頭橋の近くにあった尾張紡績の工場が崩壊し、その際に圧死した従業員39人を弔うため、雲心寺に建立された碑です。尾張紡績の工場はレンガ造りで、当時の人々には堅牢な建物とされていました。機械が2階に据え付けてあったことから激震で床が崩れ落ち、多くの従業員が死傷したとされています。



● ^{かんのんじ}観音寺（荒子観音）

所在地：名古屋市中川区荒子町宮窓

交通：あおなみ線「荒子」駅南西約600m



荒子観音は、江戸時代から尾張四観音の一つとして重んじられてきた観音寺です（残り三つは、笠寺観音、龍泉寺観音、甚目寺観音）。本堂は明治24（1891）年濃尾地震で倒壊し、その後しばらく、古材を用いた仮堂が建てられていました。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ NAGOYA アカリナイト

今年で6年目を迎えるNAGOYA アカリナイトでは、テレビ塔のライトアップや、久屋大通公園を大きな花の庭園に見立てた「花のアカリ」などの演出が行われ、総数約10万球のアカリが、栄の街を明るく照らします。期間中の12月5日には、久屋大通公園も



ちの木広場にて、Candle Night Nagoya 2015 が開催されます。東日本大震災の風化を防ぎ、名古屋の防災意識を高めるため、来場者とキャンドルの点火を行うほか、音楽ライブなどを通じて、東北へメッセージを発信します。会場内には東北グルメの屋台も登場します。

12月のあいちの花

平成27年12月のあいちの花はシンビジウムです。シンビジウムは、日本ではポピュラーな洋ランのひとつで、品種改良が進み、世界でも有数の育種や栽培技術を誇っています。



花もちがよい品種では2か月以上咲き続けるものもありますが、翌年以降も花を楽しみたい場合には1か月ほどで切り花にします。最近では、花茎が大きく下に垂れ下がるカスケードタイプと呼ばれる品種も、普及が進んでいます。

● ブレイクタイム ●

♪ リニア・鉄道館

リニア・鉄道館は、東海道新幹線を中心に、在来線から超電導リニアまでの展示を通じて「高速鉄道技術の進歩」を紹介する施設で、平成23年3月にオープンしました。

館内には、歴代の新幹線や在来線39両の実物車両が展示されています。また、日本最大級の鉄道ジオラマや、新幹線・在来線の運転シミュレーターもあり、子どもから大人まで、新幹線やリニアのしくみ、鉄道の歴史などを体験しながら楽しく学ぶことができます。



リニア・鉄道館 HP より

『リニア・鉄道館』

所在地：名古屋市港区金城ふ頭3-2-2

交通：あおなみ線「金城ふ頭」駅 徒歩2分

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会（仮称）・名古屋大学減災連携研究センター 平成27年12月）

